#### 【研究報告】

### 看護実践から見出した外来看護師の能力

#### 廣川恵子\*1・大久保八重子\*2・植田喜久子\*1

#### 【要 旨】

研究の目的は、外来看護師の語る看護実践から外来看護師の能力を明らかにし、外来看護師の役割を考察することである。研究方法は外来看護師 10 名に半構成的面接をし、質的帰納的に分析を行った。その結果、外来看護師が役割を遂行するために活用している能力として、【外来受診中の今ここで看護を必要としている患者を見つけ出す能力】、【関わる時間を捻出する能力】、【外来受診の間に看護を実践する能力】、【関係性を築き継続していく能力】、【外来看護において大切にしていることを実践できる能力】、【自分自身の看護を振り返り考える能力】が抽出された。外来看護師の役割は、外来受診中に看護の必要性のある患者を見つけ出し看護実践を通して関係性を継続すること、看護実践において大切にしていることや目指す看護を持ち、病いと共に生きている患者と家族の気持ちに思いを寄せ、安らぎのある日常生活を送れるよう支えることである。

【キーワード】外来看護師、能力、看護実践

#### はじめに

外来看護の特徴は、外来患者が限られた時間で診察や検査などを受け帰宅して行くこと、患者の抱える問題が見えにくい上に、より社会生活や家庭生活と密着していること、自宅でセルフケアできるよう生活に沿った支援をする必要があることなどが挙げられる(小林、1998;林、2001)。また、生活習慣病など慢性疾患の増加、在院日数の短縮、患者の価値観の多様化、医療の進歩などに伴い、外来看護の対象は重症化、複雑化する一方である(林、1990、畠中、2000、小薬、2005、数間、小林、2005、野中、2006)。従来ならば、入院治療していた患者が、外来通院しながら自宅で生活をするという状況も珍しくない。

このような外来看護の特徴や変化に伴い、外来看護師にはますます専門性が求められる。専門性とは、特定の分野における特殊性や特定の分野で携わる役割・機能(由井,2006)である。これまで、外来看護師の役割として、変化によりよく適応できるように支援し継続的に対処する役割、医師の指示に基づき医療行為を行いその反応を観察する役割、緊急事態に対する効果的な対応を行う役割(数間、小林,2005)、患者の自己管理を支援し在宅療養を可能にする役割(畠中,2000)が示されている。また、市橋(2001)は、がん専門病院において訪問看護を受

けているがん患者および家族に面接を行い,外来看護師の役割を明らかにしている。しかし,一般病院における外来看護師の看護実践から能力を明らかにし,役割を考察した研究は見当たらない。

外来看護の対象は重症化,複雑化している反面, 外来における看護職員の配置定員は患者30名につき 1名である (医療法施行規則第19条)。さらに、7 対1入院基本料の新設で、病棟の人員配置が増え、 外来看護師が減少傾向にある(吉田, 2007)。看護 職者がキャリアについて悩んでいることのうち、最 も多いものは専門性の不確かさであった(グレッグ 他, 2005)。また、臨床看護師はキャリアを発達さ せていくプロセスの中で、自己の課題を認識し、専 門性の追求を行なっていることが明らかになってい る (グレッグ、池邉、池西、林、平山、2003)。 す なわち、看護師が専門性を明確にしていくことは、 キャリアを発達させていくプロセスにおいて重要で ある。外来看護師が日々行なっている自らの看護実 践の中から能力を明確にし、役割を見出すことは、 外来看護師がキャリアを発達させていく際の方向性 を示すことができる。外来看護師がキャリアを発達 させていくことは、役割が拡大している外来におい て質の高い看護を提供していくために必要である。

また,一般病院における外来看護師の役割を明らかにすることは,外来看護師の専門性を高めるため

の継続的な学習プログラム開発の一助となる。

#### 研究目的

- 1. 外来看護師の語る看護実践から, 外来看護師の能力を明らかにする。
- 2. 明らかになった能力から、外来看護師の役割を考察する。

#### 用語の定義

外来看護師:一般病院の外来に勤務する看護師。 外来看護師の能力:外来看護を担っている看護師が 看護実践をしていくために必要なちから。

#### 研究方法

- 1. **研究デザイン**:質的・帰納的アプローチによる 因子探索型研究方法。
- 2. 研究対象者:一般病院Aに勤務する外来看護師で、外来看護を3年以上経験しており、本研究の参加に同意の得られた看護師10名とした。
- 3.データ収集期間

2007年1月から8月までの8ヶ月間。

#### 4. データ収集方法

研究者自身が作成した半構成的インタビューガイドを用い、面接法によりデータ収集を行った。データ収集に先立っては、対象者の条件を満たす看護師3名に対して予備的面接を行い、インタビューガイドを修正した。質問内容は、①いままでの勤務のなかで、長く関わったり印象に残っている看護場面、②どのようなことを考えて看護実践をしているかとした。面接は研究者1名で行い、面接の内容は対象者の了解を得たうえでテープに録音した。面接内容は終了後、逐語録にした。

#### 5. データ分析方法

逐語録を何度も繰り返して読み、全体の流れをつかんだうえで、外来看護師としての役割を遂行するために活用している能力が語られているローデータを抽出した。抽出したローデータは、文脈を損なわないようにコード化した。その後、各コードを類似したものでまとめ大中小カテゴリーに分類した。分析に際しては、外来看護経験年数5年以上の看護師および質的研究手法による研究経験を有する研究者で繰り返し検討を重ね、信用可能性(Holloway & Wheeler、1996/2000)の確保に努めた。

#### 6. 倫理的配慮

対象者に対して個別に研究の目的, 意義, 方法 を文書および口頭で説明し協力を依頼した。研究 への参加は自由意志によるものであり, 面接への 不参加を選んだ場合でも今後の業務に不利益を被ることはないこと、対象者および対象者が語った 患者のプライバシーを保護すること、データはすべて鍵のかかる場所で保管すること、研究に参加するか否かは誰にも公表しないこと、個人が特定されない形で学会等に発表する予定であることを文書および口頭で約束し、同意書を得た。なお、研究終了後、データはシュレッダーにかけて処理することとした。

#### 結 果

#### 1. 対象者の概要

対象者の性別はいずれも女性で、平均年齢は45.2歳であった。対象者が担当する外来は、内科3名、外科2名、放射線科、産婦人科、耳鼻科、泌尿器科、整形外科各1名であった。外来看護の平均経験年数は11年であった。

また,対象者の勤務する病院は16の診療科があり, 外来看護師はパート4名を含む25名であった。平成 18年度の1日平均外来患者数は約540名であった。

## 2. 外来看護師が役割を遂行するために活用している能力

外来看護師が役割を遂行するために活用している 能力として、【外来受診中の今ここで看護を必要と している患者を見つけ出す能力】、【関わる時間を捻 出する能力】、【外来受診の間に看護を実践する能 力】、【関係性を築き継続していく能力】、【外来看護 において大切にしていることを実践できる能力】、 【自分自身の看護を振り返り考える能力】の6つの 大カテゴリーと、40の中カテゴリーが抽出された(表 1)。なお、文中の【 】は大カテゴリー名、《 》 は中カテゴリー名、「 」はローデータを表す。看 護師が語ることばのうち、方言、指示語そして文脈 からことばを加えないと伝わりにくい部分には研究 者がことばを補完し( )で示した。

# 1) 外来受診中の今ここで看護を必要としている患者を見つけ出す能力

【外来受診中の今ここで看護を必要としている患者を見つけ出す能力】は、患者が外来にいる、その間に、看護の必要性が高い患者を多数の患者のなかから捉えるちからを意味する。これには、《患者の姿勢や言動、表情から瞬時に重症度や緊急度を捉える》、《処置内容や疾患から看護の必要性を判断する》、《看護師から近づいていかないとわからないことがあることを知っている》、《患者をみて気になったことを、患者自身に確認する》、《一度待てると判断した患者も気にし続ける》、《いつもの様子と比較

表1 外来看護師が役割を遂行するために活用している能力

能力 に調整する 忙しくても3~5分あれば話はできると思う 外来での様子から日常生活のことを考える 点滴や処置のわずかな時間を利用して話をする できるだけ安楽にかつ効率的に順番を待てるよう配慮する 受診の目的が達成されるよう配慮する 受診していることに気づけるようにアンテナを張り巡らす 絶対に関わりたい患者を決め、受診中に関わることを諦めない 必要な情報を意図的に集める 患者が帰宅するときのことや、在宅でのことを予測し関わる 患者の心理や反応、状況から予測される苦痛や苦悩を考えて関わる 患者や家族の対処を支援する 状況に応じて自分の役割を考え行動する 前回の受診時に話したことや経過を意識的に話して、つながりを感じられるようにする 病気以外の話をすることも大切にする 看護師が患者のことをわかっていると視線やことばで伝える	大カテゴリー	中カテゴリー
外来受診中の今ここで者 護を必要としている患者 を見つけ出す能力  一度符であと判断した患者も気にし続ける いつもの様子と比較することや、降がいの程度から肴護の必要性を判断する 外来の患者全体に目を向ける 気になる患者と関わる時間を作り出すために、患者の動きや周りの状況を見ながら、自分の棄務の流れを調整する 患者の受診目的を把握したうえで、自分の時間が取れる時間帯に受診するよう計画的 に調整する 性しくでも3~5分あれば話はできると思う 外来での様子から目常生活のことを考える 点滴や処置のわずかな時間を利用して話をする できるだけ交楽にかつかり時に顕語を持てるよう配慮する 受診の目的が達成されるよう配慮する 受診していることに気づけるようにアンテナを張り巡らす 差対に関わりたい患者炎決の、受診中に関わることを締めない 必要な情報を意図的に集める 患者の心理や反応、状況から予測される苦痛や苦悩を考えて関わる 患者の心理や反応、状況から予測される苦痛や苦悩を考えて関わる 患者の心理や反応、状況から予測される苦痛や苦悩を考えて関わる 患者の心理や反応、状況から予測される苦痛や苦悩を考えて関わる 患者の心理や反応がいまるとい気づけるように下ンテナを張り巡らす を対に応じて自分の投動を考え行動する 前回の受診時に話したことや経過を意識的に話して、つながりを感じられるようにする 精気以外の話をすることも大切にする 看護師が患者のことをわかっていると視線やことばで伝える 患者の表情や言動から看護師に対する患者の思いや関係性の変化を捉える 看護師の言動が患者との関係性にどのような影響を与えるか知っている 関心を持ち続け意識的に対する患者の思いや関係性の変化を捉える 看護師の言動が患者との関係性にどのような影響を与えるか知っている 関心を持ち続け意識的に対する患者の思いや関係性の変化を捉える 看護師の言動が患者との関係性にどのような影響を与えるか知っている 関心を持ち続けることを実践できるようで看護をしたい 患者例率の保持もを持つて看護したい 患者例本の保持もを持つて看護としたい 自分自身の看護を振り返り模索を続ける 自分自身の看護を振り返り検索を続ける 自分自身の看護を振り返り検索を続ける 自分自身の看護を振り返る 外来看護に限界やジレンマを感じる 自分自身の外来でのイメージがある		患者の姿勢や言動、表情から瞬時に重症度や緊急度を捉える
思者をみて気になったことを、患者自身に確認する 一度待てると判断した患者も気にし続ける いつもの様子と比較することや、陰かいの程度から看護の必要性を判断する 外来の患者全体に目を向ける 気になる患者と関わる時間を作り出すために、患者の動きや周りの状況を見ながら、自分の業務の流れを測整する 患者の受診目的を把握したうえで、自分の時間が取れる時間帯に受診するよう計画的に調整する におの受診目的を把握したうえで、自分の時間が取れる時間帯に受診するよう計画的に対しても3~5分あれば話はできると思う 外来で成様子から日常生活のことを考える 。高海や屋のかずかな時間を利用して話をする できるだけ弦楽にかつ効率的に順番を待てるよう配慮する 受診の目的が達成されるよう配形する 受診の目的が達成されるよう配形する を要な情報を意図的に集める 患者が帰宅するときのことや、在宅でのことを予測し関わることを締めない を要な情報を意図的に集める 患者が帰宅するときのことや、在宅でのことを予測し関わる 患者が帰宅するときのことや、在宅でのことを予測し関わる 患者を実験が対処を支援する 状況に応じて自分の役割を考え行動する 有疑が必要なを対してもならのできるともよりにする 看護師が患者のことをわかっていると視線やことばで伝える 患者のよりを診断に苦して、とな対応をするよう心がけて、関係性を継続させる 最者のはからを関係性にどのような影響を与えるか知っている 関心を持ち続け意識的にコミュニケーションをとる 患者がな心や安集、安全を感じられるような対応を心がける 患者の素において大切に していることを実践でき る能力  単者というないなないないないでは、会話を心がける 患者の素がな心や安集、安全を感じられるような対応を心がける 患者の素がな心や安集、安全を感じられるような対応を心がける 患者の素が表が良きを大切にするよう心がける 患者や家族の気持ちを持って看護したい 患者や家族の気持ちを大切にするよう心がける 見分自身の看護を振り返る 外来看護に限界やジレンマを感じる 自分自身の看護を振り返る 外来看護に限界やジレンマを感じる 自分自身の希護を振り返る 外来看護に限界やジレンマを感じる 自分自身の外来でのイメージがある	護を必要としている患者	処置内容や疾患から看護の必要性を判断する
腰を必要としている患者 を見つけ出す能力  一度特でると判断した患者も気にし続ける いつもの様子と比較することや、障がいの程度から看護の必要性を判断する 外来の患者全体に目を向ける 気になる患者と関わる時間を作り出すために、患者の動きや周りの状況を見ながら、自分の寒務の流れを調整する 患者の受診目的を把握したうえで、自分の時間が取れる時間帯に受診するよう計画的 に調整する 忙しくでも3~5分あれば話はできると思う 外来での様子から日常生活のことを考える 点滴や処置のわずかを時間を利用して話をする できるだけ安薬にかつ効率的に順番を待てるよう配慮する 受診していることに気づけるようにアンテナを振り巡らす 絶対に関わりたい患者を決め、受診中に関わることを諦めない 必要な情報を意図的に集める 患者が帰さするときのことや、在宅でのことを予測し関わる 患者が帰さするときのことや。在宅でのことを予測し関わる 患者が帰さするときのことや。在宅でのことを予測し関わる 患者が縁でするときのことを・表表 状況にもじて自分の役割を考え行動する 有気以外の話をすることも大切にする 看護師が患者のことをわかっていると視線やことばで伝える 患者の表情や言動から看護師に対する患者の思いや関係性の変化を捉える 看護師の言動が患者との関係性にどのような影響を与えるか知っている 関心を持ち続け意識的にコミュニケーションをとる 患者が安心や安薬、安全を感じられるような対応を心がける 患者のようを実践できる 能力  外来看護において大切に していることを実践できる の別へを持ちを持って看護としたい 会格や穏やかな気持ちを持って看護したい 患者や家族の気持ちを大切にするよう心がける 患者や家族の気持ちを大切にするよう心がける 見合自身の看護を振り返る 外来看護に限界やジレンでを感じる 自分自身の看護を振り返る 外来看護に限界やジレンでを感じる 自分自身の看護を振り返る 外来看護に限界やジレンでを感じる 自分自身の発表を振り返る 外来看護に限界やジレンでを感じる 自分自身の外来でのイメージがある		看護師から近づいていかないとわからないことがあることを知っている
世界である。  一度待てると判断した患者も気にし続ける いつもの様子と比較することや、障がいの程度から看護の必要性を判断する 外来の患者令体に目を向ける 気になる患者と関わる時間を作り出すために、患者の動きや周りの状況を見ながら、自分の楽務の流れる薄間を作り出すために、患者の動きや周りの状況を見ながら、自分の楽務の流れる薄間を作り出すために、患者の動きや周りの状況を見ながら、自分の楽務の流れる薄間帯に受診するよう計画的に調整する 性しくても3~5分あれば話はできると思う 外来での様子から日常生活のことを考える 点滴や処匿のわずかな時間を利用して話をする できるだけ安策にかつ効率的に順番を待てるよう配慮する 受診していることに気づけるようにアンテナを張り巡らす 総対に関わりたい患者を決め、受診中に関わることを諦めない 必要な情報を意図的に集める 患者が帰宅するときのことや、在宅でのことを予測し関わる 患者の心理や反応、状況から予測される苦痛や苦悩を考えて関わる 患者や家族の対処を支援する 状況に応じて自分の役割を考え行動する 前回の受診時に話したことや経過を意識的に話して、つながりを感じられるようにする 病気以外の話をすることも大切にする 看護師が患者のことをわかっていると視線やことばで伝える 患者の表情を言動から看護師に対する患者の思いや関係性の変化を捉える 看護師の言動が患者との関係性にどのような影響を与えるか知っている 関心を持ち続け意識的にコミュニケーションをとる 患者の表情や言動から看護師に対する患者の思いや関係性の変化を捉える 看護師の言動が患者との関係性にどのような影響を与えるか知っている 関心を持ち続け意識的にコミュニケーションをとる 患者の表情や言動から看護をしたい よ者のなに合った看護したい 患者のなに合った看護をしたい 介緒や穏やかな気持ちを持つて看護したい 患者や家族の気持ちを大切にするよう心がける 長い人生の一瞬の関わりであるが、どのように関わるかを大切にしたい 自分自身の看護を振り返る 外来看護に関界やジレンマを感じる 自分自身の看護を振り返る 外来看護に関界やジレンマを感じる 自分自身の看護を振り返る		患者をみて気になったことを、患者自身に確認する
いつもの様子と比較することや、障がいの程度から看護の必要性を判断する 外来の患者全体に目を向ける 気になる患者と関わる時間を作り出すために、患者の動きや周りの状況を見ながら、自分の変務の流れを調整する 虚力の変務の流れを調整する 虚力の変勢の流れを調整する 虚力の変勢の流れを調整する をしても3~5分あれば話はできると思う 外来での様子から日常生活のことを考える 点滴や処置のわずから時間を利用して話をする できるだけ安薬にかつ効率的に順番を待てるよう配慮する 受診していることに気づけるようにアンテナを張り巡らす 絶対に関わりたい患者を決め、受診中に関わることを諦めない 必要な情報を意図的に集める 患者が帰宅するときのことや、在宅でのことを予測し関わる 患者が帰宅するときのことや、在宅でのことを予測し関わる 患者が帰宅するときのことや、在宅でのことを予測し関わる 患者が帰宅するときのことや、在宅でのことを予測し関わる 患者が帰宅するときのことや、在宅でのことを予測し関わる 患者の必理や反応、状況から予測される苦痛や苦悩を考えて関わる 患者が最近を支援する 状況に応じて自分の役割を考え行動する 前回の受診時に話したことや経過を意識的に話して、つながりを感じられるようにする 病気以外の話をすることも大切にする 看護師が患者のことをわかっていると視線やことばで伝える 患者個々に合った対応をしたり、患者の気持ちを察した対応をするよう心がけて、関係性を継続せなる 患者の表情や言動から看護師に対する患者の思いや関係性の変化を捉える 看護師の言動が患者との関係性にどのような影響を与えるか知っている 関心を持ち続け意識的にコミュニケーションをとる 患者が安心や安薬、安全を感じられるような対応を心がける 患者が安心や安薬、安全を感じられるような対応を心がける 患者が安心や安薬、安全を感じられるような対応を心がける 患者が安心や安薬、安全を感じられるような対応を心がける 患者が安心や安薬、安全を感じられるような対応を心がける 患者が応じて合った看護としたい 余裕や穏やかな気持ちを持つて看護したい 患者や家族の気持ちを大切にするよう心がける 長者を振り返る 外来看護に限界やジレンマを感じる 自分自身の看護を振り返る 外来看護に限界やジレンマを感じる 自分自身の看護を振り返る 外来看護に限界やジレンマを感じる 自分自身の看護を振り返る 外来看護に限界やジレンマを感じる 自分自身の外来でのイメージがある		
関わる時間を捻出する 能力  関わる時間を捻出する 能力  「関わる時間を捻出する。 にする患者と関わる時間を作り出すために、患者の動きや周りの状況を見ながら、自分の要素が流れを調整する。 患者の受診目的を把握したうえで、自分の時間が取れる時間帯に受診するよう計画的に調整する。 だしくでも3~5分あれば話はできると思う  外来での様子から日常生活のことを考える。 点滴や処置のわずかな時間を利用して話をする。 できるだけ安楽にかつ効率的に順番を待でるよう配慮する。 受診し目的が達成されるよう配慮する。 受診し目的が達成されるよう配慮する。 受診していることに気づけるようにアンテナを張り巡らす。 絶対に関わりたい患者を決め、受診中に関わることを諦めない。 必要な情報を意図的に集める。 患者が帰宅するときのことや、在宅でのことを予測し関わる。 患者の心理や反応、状況から予測される苦痛や苦悩を考えて関わる。 患者の素を放り処を支援する。 状況に応じて自分の役割を考え行動する。 前回の受診時に話したことや経過を意識的に話して、つながりを感じられるようにする。 看護師患者のことをわかっていると視線やことはで伝える。 患者の表情の言動が患者との関係性にどのような影響を与えるか知っている。 関心を持ち続け意識的にコミュニケーションをとる。 患者の表情や言動から看護師に対する患者の思いや関係性の変化を捉える。 看護師の言動が患者との関係性にどのような影響を与えるか知っている 関心を持ち続け意識的にコミュニケーションをとる。 患者が表ない安楽、安全を感じられるような対応を心がける。 患者の表するを対したい。 と者で変なの気持ちを持つて看護したい。 患者を実験の気持ちを大切にするよう心がける。 長い人生の一瞬の関わりであるが、どのように関わるかを大切にしたい。 自分自身の看護を振り返る 外来看護に限界やジレンマを感じる。自分自身の看護を振り返る 外来看護に限界やジレンマを感じる。自分自身の有悪を振り返り検索を続ける自分自身の看護を振り返る 外来看護に限界やジレンマを感じる		
関かる時間を捻出する 能力  自分の業務の流れを調整する  患者の受診目的を把握したうえで、自分の時間が取れる時間帯に受診するよう計画的に調整する  が果での様子から日常生活のことを考える 点滴や処置のわずかな時間を利用して話をする できるだけ安楽にかつ効率的に順番を待てるよう配慮する 受診の目的が達成されるよう配慮する 受診の目的が達成されるよう配慮する 受診の目的が達成されるよう配慮する 受診の目的が達成されるよう配慮する 受診していることに気づけるようにアンテナを張り巡らす 絶対に関わりたい患者を決め、受診中に関わることを諦めない 必要な情報を意図的に集める 患者が帰むするときのことや、在宅でのことを予測し関わる 患者の心理や反応、状況から予測される苦痛や苦悩を考えて関わる 患者や家族の対処を支援する 状況に応じて自分の役割を考え行動する 患者の表情や言動か患者を決しまする 精気以外の話をすることも大切にする 看護師が患者のことをわかっていると視線やことはで伝える 患者の表情や言動から看護師に対する患者の思いや関係性の変化を捉える 看護師の言動が患者との関係性にどのような影響を与えるか知っている 関心を持ち続け意識的にコミュニケーションをとる 患者が安心や安楽、安全を感じられるような対応を心がける 外来看護において大切にしていることを実践できる能力  患者や家族の気持ちを持つて看護したい 念者や穏やかな気持ちを持つて看護したい 患者や家族の気持ちを大切にするよう心がける 長い人生の一瞬の関わりであるが、どのように関わるかを大切にしたい 自分自身の看護を振り返る 外来看護に限界やジレンマを感じる 自分自身の看護を振り返る 外来看護に限界やジレンマを感じる 自分自身の角葉を振り返る 外来看護に限界やジレンマを感じる 自分自身の角葉を振り返る 外来看護に限界やジレンマを感じる		
関かる時間を捻出する 能力  自分の業務の流れを調整する  患者の受診目的を把握したうえで、自分の時間が取れる時間帯に受診するよう計画的に調整する  が果での様子から日常生活のことを考える 点滴や処置のわずかな時間を利用して話をする できるだけ安楽にかつ効率的に順番を待てるよう配慮する 受診の目的が達成されるよう配慮する 受診の目的が達成されるよう配慮する 受診の目的が達成されるよう配慮する 受診の目的が達成されるよう配慮する 受診していることに気づけるようにアンテナを張り巡らす 絶対に関わりたい患者を決め、受診中に関わることを諦めない 必要な情報を意図的に集める 患者が帰むするときのことや、在宅でのことを予測し関わる 患者の心理や反応、状況から予測される苦痛や苦悩を考えて関わる 患者や家族の対処を支援する 状況に応じて自分の役割を考え行動する 患者の表情や言動か患者を決しまする 精気以外の話をすることも大切にする 看護師が患者のことをわかっていると視線やことはで伝える 患者の表情や言動から看護師に対する患者の思いや関係性の変化を捉える 看護師の言動が患者との関係性にどのような影響を与えるか知っている 関心を持ち続け意識的にコミュニケーションをとる 患者が安心や安楽、安全を感じられるような対応を心がける 外来看護において大切にしていることを実践できる能力  患者や家族の気持ちを持つて看護したい 念者や穏やかな気持ちを持つて看護したい 患者や家族の気持ちを大切にするよう心がける 長い人生の一瞬の関わりであるが、どのように関わるかを大切にしたい 自分自身の看護を振り返る 外来看護に限界やジレンマを感じる 自分自身の看護を振り返る 外来看護に限界やジレンマを感じる 自分自身の角葉を振り返る 外来看護に限界やジレンマを感じる 自分自身の角葉を振り返る 外来看護に限界やジレンマを感じる		気になる患者と関わる時間を作り出すために、患者の動きや周りの状況を見ながら、
能力  思者の交診目的を把握したつえで、自分の時間が収れる時間帝に交診するよう計画的 に調整する  忙しくでも3~5分あれば話はできると思う 外来での様子から日常生活のことを考える 点滴や処置のわずかな時間を利用して話をする できるだけ安楽にかつ効率的に順番を待てるよう配慮する 受診の目的が達成されるよう配慮する 受診していることに気づけるようにアンテナを張り巡らす 絶対に関わりたい患者を決め、受診中に関わることを諦めない 必要な情報を意図的に集める 患者が帰宅するときのことや、在宅でのことを予測し関わる 患者が帰宅するときのことや、在宅でのことを予測し関わる 患者や家族の対処を支援する 状況に応じて自分の役割を考え行動する 前回の受診時に話したことや経過を意識的に話して、つながりを感じられるようにする 病気以外の話をすることも大切にする 看護師が患者のことをわかっていると視線やことばで伝える 患者の表情や言動から看護師に対する患者の思いや関係性の変化を捉える 看護師の言動が患者との関係性にどのような影響を与えるか知っている 関心を持ち続け意識的にコミュニケーションをとる 患者が安心や安楽、安全を感じられるような対応を心がける 患者側々に合った対応をしたい 最者の表情や治やかな気持ちを持って看護したい と者を家族の気持ちを大切にするよう心がける 患者や彩族の気持ちを大切にするよう心がける 患者や寒族の気持ちを大切にするよう心がける していることを実践でき る能力  自分自身の看護を振り返る 外来看護に限界やジレンマを感じる 自分自身の看護を振り返る 外来看護に限界やジレンマを感じる 自分自身の利寒を振り返る 外来看護に限界やジレンマを感じる 自分自身の外来でのイメージがある		
に調整する 忙しても3~5分あれば話はできると思う 外来での様子から日常生活のことを考える 。高海や処置のわずかな時間を利用して話をする できるだけ安楽にかつ効率的に順番を待てるよう配慮する 受診していることに気づけるようにアンテナを張り巡らす 絶対に関わりたい患者を決め、受診中に関わることを諦めない 必要な情報を意図的に集める 患者が帰宅するときのことや、在宅でのことを予測し関わる 患者の・理や反応、状況から予測される苦痛や苦悩を考えて関わる 患者の・理や反応、状況から予測される苦痛や苦悩を考えて関わる 患者の・理や反応、状況から予測される苦痛や苦悩を考えて関わる 患者の・理や反応、状況から予測される苦痛や苦悩を考えて関わる 患者の・理や反応、状況から予測される苦痛や苦悩を考えて関わる 患者で家族の対処を支援する 状況に応じて自分の役割を考え行動する 前回の受診時に話したことや経過を意識的に話して、つながりを感じられるようにする 病気以外の話をすることも大切にする 看護師が患者のことをわかっていると視線やことばで伝える 患者個々に合った対応をしたり、患者の気持ちを察した対応をするよう心がけて、関係性を継続させる 患者の表情や言動から看護師に対する患者の思いや関係性の変化を捉える 看護師の言動が患者との関係性にどのような影響を与えるか知っている 関心を持ち続け意識的にコミュニケーションをとる 患者が安心や安楽、安全を感じられるような対応を心がける 患者側々に合った看護をしたい よ者や穏やかな気持ちを持って看護したい 患者や縁かな気持ちを持って看護したい 患者や縁かな気持ちを持って看護したい 患者や穏やかな気持ちを持って看護したい 自分自身の看護を振り返り検索を続ける 自分自身の看護を振り返る 外来看護に限界やジレンマを感じる 自分自身の看護を振り返る		患者の受診目的を把握したうえで、自分の時間が取れる時間帯に受診するよう計画的
外来での様子から日常生活のことを考える 点滴や処置のわずかな時間を利用して話をする できるだけ安楽にかつ効率的に順番を待てるよう配慮する 受診の目的が達成されるよう配慮する 受診していることに気づけるようにアンテナを張り巡らす 絶対に関わりたい患者を決め、受診中に関わることを諦めない 必要な情報を意図的に集める 患者が帰宅するときのことや、在宅でのことを予測し関わる 患者の心理や反応、状況から予測される苦痛や苦悩を考えて関わる 患者や家族の対処を支援する 状況に応じて自分の役割を考え行動する 前回の受診時に話したことや経過を意識的に話して、つながりを感じられるようにする 病気以外の話をすることも大切にする 看護師が患者のことをわかっていると視線やことばで伝える 患者個々に合った対応をしたり、患者の気持ちを察した対応をするよう心がけて、関係性を継続させる 患者の表情や言動から看護師に対する患者の思いや関係性の変化を捉える 看護師の言動が患者との関係性にどのような影響を与えるか知っている 関心を持ち続け意識的にコミュニケーションをとる 患者変しいや安楽、安全を感じられるような対応を心がける 患者例々に合った看護をしたい よのことを実践できる能力           外来看護において大切に していることを実践できる能力         患者個々に合った看護をしたい 患者個々に合った看護をしたい ことを持るできないを変。安全を感じられるような対応を心がける 患者が安心や安楽、安全を感じられるような対応を心がける 患者解々に合った看護をしたい 患者解々に合った看護をしたい 患者の表持ちを持つて看護したい 息者や家族の気持ちを大切にするよう心がける 長い人生の一瞬の関わりであるが、どのように関わるかを大切にしたい 自分自身の看護を振り返り模索を続ける 自分自身の看護を振り返り検索を続ける 自分自身の看護を振り返り検索を続ける 自分自身の看護を振り返る 外来看護に限界やジレンマを感じる 自分自身の外来でのイメージがある	能力	に調整する
点滴や処置のわずかな時間を利用して話をする できるだけ安楽にかつ効率的に順番を持てるよう配慮する 受診の目的が達成されるよう配慮する 受診していることに気づけるようにアンテナを張り巡らす 総対に関わりたい患者を決め、受診中に関わることを諦めない 必要な情報を意図的に集める 患者が帰宅するときのことや、在宅でのことを予測し関わる 患者の心理や反応、状況から予測される苦痛や苦悩を考えて関わる 患者や家族の対処を支援する 状況に応じて自分の役割を考え行動する 前回の受診時に話したことや経過を意識的に話して、つながりを感じられるようにする 病気以外の話をすることも大切にする 看護師が患者のことをわかっていると根線やことばで伝える 患者個々に合った対応をしたり、患者の気持ちを察した対応をするよう心がけて、関係性を継続させる 患者の表情や言動から看護師に対する患者の思いや関係性の変化を捉える 看護師の言動が患者との関係性にどのような影響を与えるか知っている 関心を持ち続け意識的にコミュニケーションをとる 患者が安心や安楽、安全を感じられるような対応を心がける 患者がな心や安楽、安全を感じられるような対応を心がける 患者がな心や安楽、安全を感じられるような対応を心がける 患者を心をかな気持ちを持って看護したい 患者や家族の気持ちで対している。 患者のような対応を心がける まを必定の気持ちで持って看護したい 患者や家族の気持ちで大切にするよう心がける 長い人生の一瞬の関わりであるが、どのように関わるかを大切にしたい 自分自身の看護を振り返り検索を続ける 自分自身の看護を振り返る 外来看護に限界やジレンマを感じる 自分自身の外来でのイメージがある		忙しくても3~5分あれば話はできると思う
アきるだけ安楽にかつ効率的に順番を待てるよう配慮する 受診の目的が達成されるよう配慮する 受診していることに気づけるようにアンテナを張り巡らす 絶対に関わりたい患者を決め、受診中に関わることを諦めない 必要な情報を意図的に集める 患者が帰宅するときのことや、在宅でのことを予測し関わる 患者の心理や反応、状況から予測される苦痛や苦悩を考えて関わる 患者や家族の対処を支援する 状況に応じて自分の役割を考え行動する 前回の受診時に話したことや経過を意識的に話して、つながりを感じられるようにする 病気以外の話をすることも大切にする 看護師が患者のことをわかっていると視線やことばで伝える 患者個々に合った対応をしたり、患者の気持ちを察した対応をするよう心がけて、関係性を継続させる 患者の表情や言動から看護師に対する患者の思いや関係性の変化を捉える 看護師の言動が患者との関係性にどのような影響を与えるか知っている 関心を持ち続け意識的にコミュニケーションをとる 患者が安心や安楽、安全を感じられるような対応を心がける 患者個々に合った看護をしたい く希や穏やかな気持ちを持つて看護したい 患者や家族の気持ちを大切にするよう心がける 長い人生の一瞬の関わりであるが、どのように関わるかを大切にしたい 自分自身の看護を振り返る 外来看護に限界やジレンマを感じる 自分自身の看護を振り返る 外来看護に限界やジレンマを感じる 自分自身の外来でのイメージがある		外来での様子から日常生活のことを考える
受診の目的が達成されるよう配慮する     受診していることに気づけるようにアンテナを張り巡らす     絶対に関わりたい患者を決め、受診中に関わることを諦めない     必要な情報を意図的に集める     患者が帰宅するときのことや、在宅でのことを予測し関わる     患者の心理や反応、状況から予測される苦痛や苦悩を考えて関わる     患者や家族の対処を支援する     状況に応じて自分の役割を考え行動する     前回の受診時に話したことや経過を意識的に話して、つながりを感じられるようにする     看護師が患者のことをわかっていると視線やことばで伝える     患者個々に合った対応をしたり、患者の気持ちを察した対応をするよう心がけて、関係性を継続させる     患者の表情や言動から看護師に対する患者の思いや関係性の変化を捉える     看護師の言動が患者との関係性にどのような影響を与えるか知っている     関係性において大切にしていることを実践できる     患者が安心や安薬、安全を感じられるような対応を心がける     患者が安心や安薬、安全を感じられるような対応を心がける     患者の表情や意かな気持ちを持って看護したい     患者が寒心や安薬、安全を感じられるような対応を心がける     患者の表情をしたい     自分自身の看護を振り返り模索を続ける     自分自身の看護を振り返り模索を続ける     自分自身の看護を振り返る     外来看護に限界やジレンマを感じる     自分自身の外来でのイメージがある		点滴や処置のわずかな時間を利用して話をする
外来受診の間に看護を 実践する能力  型診していることに気づけるようにアンテナを張り巡らす 絶対に関わりたい患者を決め、受診中に関わることを諦めない 必要な情報を意図的に集める 患者の心理や反応、状況から予測される苦痛や苦悩を考えて関わる 患者や家族の対処を支援する 状況に応じて自分の役割を考え行動する 前回の受診時に話したことや経過を意識的に話して、つながりを感じられるようにする 病気以外の話をすることも大切にする 看護師が患者のことをわかっていると視線やことばで伝える 患者個々に合った対応をしたり、患者の気持ちを察した対応をするよう心がけて、関係性を継続させる 患者の表情や言動から看護師に対する患者の思いや関係性の変化を捉える 看護師の言動が患者との関係性にどのような影響を与えるか知っている 関心を持ち続け意識的にコミュニケーションをとる 患者が安心や安薬、安全を感じられるような対応を心がける 患者個々に合った看護をしたい 余裕や穏やかな気持ちを持って看護したい 余裕や穏やかな気持ちを大切にするよう心がける 患者や家族の気持ちを大切にするよう心がける 長い人生の一瞬の関わりであるが、どのように関わるかを大切にしたい 自分自身の看護を振り返り検索を続ける 自分自身の看護を振り返る 外来看護に限界やジレンマを感じる 自分自身の外来でのイメージがある		できるだけ安楽にかつ効率的に順番を待てるよう配慮する
外来受診の間に看護を 実践する能力  - 総対に関わりたい患者を決め、受診中に関わることを諦めない  - 必要な情報を意図的に集める - 患者が帰宅するときのことや、在宅でのことを予測し関わる - 患者の心理や反応、状況から予測される苦痛や苦悩を考えて関わる - 患者や家族の対処を支援する - 状況に応じて自分の役割を考え行動する - 前回の受診時に話したことや経過を意識的に話して、つながりを感じられるようにする - 病気以外の話をすることも大切にする - 看護師が患者のことをわかっていると視線やことばで伝える - 患者個々に合った対応をしたり、患者の気持ちを察した対応をするよう心がけて、関係性を継続させる - 患者の表情や言動から看護師に対する患者の思いや関係性の変化を捉える - 看護師の言動が患者との関係性にどのような影響を与えるか知っている - 関心を持ち続け意識的にコミュニケーションをとる - 患者が安心や安楽、安全を感じられるような対応を心がける - 患者個々に合った看護をしたい - 会補や穏やかな気持ちを持って看護したい - 患者の表情や含った看護をしたい - 会補や穏やかな気持ちを大切にするよう心がける - 長い人生の一瞬の関わりであるが、どのように関わるかを大切にしたい - 自分自身の看護を振り返り検索を続ける - 自分自身の看護を振り返し - 外来看護に限界やジレンマを感じる - 自分自身の外来でのイメージがある		受診の目的が達成されるよう配慮する
<ul> <li>実践する能力</li> <li>趣対に関わりたい患者を決め、受診中に関わることを諦めない必要な情報を意図的に集める 患者が帰宅するときのことや、在宅でのことを予測し関わる 患者の心理や反応、状況から予測される苦痛や苦悩を考えて関わる 患者や家族の対処を支援する 状況に応じて自分の役割を考え行動する 前回の受診時に話したことや経過を意識的に話して、つながりを感じられるようにする 病気以外の話をすることも大切にする 看護師が患者のことをわかっていると視線やことばで伝える 患者個々に合った対応をしたり、患者の気持ちを察した対応をするよう心がけて、関係性を継続させる 患者の表情や言動から看護師に対する患者の思いや関係性の変化を捉える 看護師の言動が患者との関係性にどのような影響を与えるか知っている 関心を持ち続け意識的にコミュニケーションをとる 患者が安心や安楽、安全を感じられるような対応を心がける 患者個々に合った看護をしたい 余裕や穏やかな気持ちを持って看護したい 患者へ家族の気持ちを大切にするよう心がける 長い人生の一瞬の関わりであるが、どのように関わるかを大切にしたい 自分自身の看護を振り返り模索を続ける 自分自身の看護を振り返る 外来看護に限界やジレンマを感じる 自分自身の外来でのイメージがある</li> </ul>		受診していることに気づけるようにアンテナを張り巡らす
		絶対に関わりたい患者を決め、受診中に関わることを諦めない
思者の心理や反応、状況から予測される苦痛や苦悩を考えて関わる 思者や家族の対処を支援する 状況に応じて自分の役割を考え行動する 前回の受診時に話したことや経過を意識的に話して、つながりを感じられるようにする 病気以外の話をすることも大切にする 看護師が患者のことをわかっていると視線やことばで伝える 思者個々に合った対応をしたり、患者の気持ちを察した対応をするよう心がけて、関係性を継続させる 思者の表情や言動から看護師に対する患者の思いや関係性の変化を捉える 看護師の言動が患者との関係性にどのような影響を与えるか知っている 関心を持ち続け意識的にコミュニケーションをとる 思者が安心や安楽、安全を感じられるような対応を心がける 思者の表で合った看護をしたい していることを実践できる能力  虚者個々に合った看護をしたい 急者や穏やかな気持ちを持って看護したい 患者や家族の気持ちを大切にするよう心がける 長い人生の一瞬の関わりであるが、どのように関わるかを大切にしたい 自分自身の看護を振り返り模索を続ける 自分自身の看護を振り返る 外来看護に限界やジレンマを感じる 自分自身の看護を振り返る 外来看護に限界やジレンマを感じる 自分自身の外来でのイメージがある	夫政りる肥刀	必要な情報を意図的に集める
思者や家族の対処を支援する 状況に応じて自分の役割を考え行動する 前回の受診時に話したことや経過を意識的に話して、つながりを感じられるようにする 病気以外の話をすることも大切にする 看護師が患者のことをわかっていると視線やことばで伝える 思者個々に合った対応をしたり、患者の気持ちを察した対応をするよう心がけて、関係性を継続させる 思者の表情や言動から看護師に対する患者の思いや関係性の変化を捉える 看護師の言動が患者との関係性にどのような影響を与えるか知っている 関心を持ち続け意識的にコミュニケーションをとる 思者が安心や安楽、安全を感じられるような対応を心がける 思者個々に合った看護をしたい していることを実践でき る能力 起者個々に合った看護をしたい 患者や家族の気持ちを持って看護したい 患者や家族の気持ちを大切にするよう心がける 長い人生の一瞬の関わりであるが、どのように関わるかを大切にしたい 自分自身の看護を振り返り模索を続ける 自分自身の看護を振り返る 外来看護に限界やジレンマを感じる 自分自身の外来でのイメージがある		患者が帰宅するときのことや、在宅でのことを予測し関わる
状況に応じて自分の役割を考え行動する 前回の受診時に話したことや経過を意識的に話して、つながりを感じられるようにする 病気以外の話をすることも大切にする 看護師が患者のことをわかっていると視線やことばで伝える 患者個々に合った対応をしたり、患者の気持ちを察した対応をするよう心がけて、関係性を継続させる 患者の表情や言動から看護師に対する患者の思いや関係性の変化を捉える 看護師の言動が患者との関係性にどのような影響を与えるか知っている 関心を持ち続け意識的にコミュニケーションをとる 患者が安心や安楽、安全を感じられるような対応を心がける 患者個々に合った看護をしたい 会裕や穏やかな気持ちを持って看護したい 患者や家族の気持ちを大切にするよう心がける 長い人生の一瞬の関わりであるが、どのように関わるかを大切にしたい 自分自身の看護を振り返る 外来看護に限界やジレンマを感じる 自分自身の看護を振り返る 外来看護に限界やジレンマを感じる 自分自身の外来でのイメージがある		患者の心理や反応、状況から予測される苦痛や苦悩を考えて関わる
前回の受診時に話したことや経過を意識的に話して、つながりを感じられるようにする 病気以外の話をすることも大切にする 看護師が患者のことをわかっていると視線やことばで伝える 患者個々に合った対応をしたり、患者の気持ちを察した対応をするよう心がけて、関係性を継続させる 患者の表情や言動から看護師に対する患者の思いや関係性の変化を捉える 看護師の言動が患者との関係性にどのような影響を与えるか知っている 関心を持ち続け意識的にコミュニケーションをとる 患者が安心や安楽、安全を感じられるような対応を心がける 患者個々に合った看護をしたい 会裕や穏やかな気持ちを持って看護したい 会裕や穏やかな気持ちを持って看護したい 患者や家族の気持ちを大切にするよう心がける 長い人生の一瞬の関わりであるが、どのように関わるかを大切にしたい 自分自身の看護を振り返り模索を続ける 自分自身の看護を振り返る 外来看護に限界やジレンマを感じる 自分自身の外来でのイメージがある		患者や家族の対処を支援する
病気以外の話をすることも大切にする 看護師が患者のことをわかっていると視線やことばで伝える 思者個々に合った対応をしたり、患者の気持ちを察した対応をするよう心がけて、関係性を継続させる 患者の表情や言動から看護師に対する患者の思いや関係性の変化を捉える 看護師の言動が患者との関係性にどのような影響を与えるか知っている 関心を持ち続け意識的にコミュニケーションをとる 患者が安心や安楽、安全を感じられるような対応を心がける 患者個々に合った看護をしたい な治を実践できる能力 とおいて大切にしていることを実践できる能力 とおいた生の一瞬の関わりであるが、どのように関わるかを大切にしたい 自分自身の看護を振り返り模索を続ける 自分自身の看護を振り返る 外来看護に限界やジレンマを感じる 自分自身の外来でのイメージがある		状況に応じて自分の役割を考え行動する
関係性を築き継続してい く能力  患者個々に合った対応をしたり、患者の気持ちを察した対応をするよう心がけて、関係性を継続させる 患者の表情や言動から看護師に対する患者の思いや関係性の変化を捉える 看護師の言動が患者との関係性にどのような影響を与えるか知っている 関心を持ち続け意識的にコミュニケーションをとる 患者が安心や安楽、安全を感じられるような対応を心がける 患者個々に合った看護をしたい していることを実践できる能力  患者を家族の気持ちを持って看護したい 患者や家族の気持ちを大切にするよう心がける 長い人生の一瞬の関わりであるが、どのように関わるかを大切にしたい 自分自身の看護を振り返る 外来看護に限界やジレンマを感じる 自分自身の看護を振り返る 外来看護に限界やジレンマを感じる 自分自身の外来でのイメージがある		前回の受診時に話したことや経過を意識的に話して、つながりを感じられるようにする
関係性を築き継続してい く能力  患者個々に合った対応をしたり、患者の気持ちを察した対応をするよう心がけて、関係性を継続させる 患者の表情や言動から看護師に対する患者の思いや関係性の変化を捉える 看護師の言動が患者との関係性にどのような影響を与えるか知っている 関心を持ち続け意識的にコミュニケーションをとる 患者が安心や安楽、安全を感じられるような対応を心がける 患者個々に合った看護をしたい 会給や穏やかな気持ちを持って看護したい 患者や家族の気持ちを大切にするよう心がける 長い人生の一瞬の関わりであるが、どのように関わるかを大切にしたい 自分自身の看護を振り返り模索を続ける 自分自身の看護を振り返る 外来看護に限界やジレンマを感じる 自分自身の外来でのイメージがある		病気以外の話をすることも大切にする
〈能力       係性を継続させる         患者の表情や言動から看護師に対する患者の思いや関係性の変化を捉える       看護師の言動が患者との関係性にどのような影響を与えるか知っている         関心を持ち続け意識的にコミュニケーションをとる       患者が安心や安楽、安全を感じられるような対応を心がける         患者個々に合った看護をしたい       余裕や穏やかな気持ちを持って看護したい         と者や家族の気持ちを大切にするよう心がける       長い人生の一瞬の関わりであるが、どのように関わるかを大切にしたい         自分自身の看護を振り返り模索を続ける       自分自身の看護を振り返る         外来看護に限界やジレンマを感じる       自分自身の外来でのイメージがある		看護師が患者のことをわかっていると視線やことばで伝える
看護師の言動が患者との関係性にどのような影響を与えるか知っている 関心を持ち続け意識的にコミュニケーションをとる 患者が安心や安楽、安全を感じられるような対応を心がける 患者個々に合った看護をしたい 余裕や穏やかな気持ちを持って看護したい 患者や家族の気持ちを大切にするよう心がける 長い人生の一瞬の関わりであるが、どのように関わるかを大切にしたい 自分自身の看護を振り返る 外来看護に限界やジレンマを感じる 自分自身の外来でのイメージがある		患者個々に合った対応をしたり、患者の気持ちを察した対応をするよう心がけて、関係性を継続させる
関心を持ち続け意識的にコミュニケーションをとる 恵者が安心や安楽、安全を感じられるような対応を心がける 恵者個々に合った看護をしたい していることを実践でき る能力 恵者や家族の気持ちを持って看護したい 恵者や家族の気持ちを大切にするよう心がける 長い人生の一瞬の関わりであるが、どのように関わるかを大切にしたい 自分自身の看護を振り返り模索を続ける 自分自身の看護を振り返る 外来看護に限界やジレンマを感じる 自分自身の外来でのイメージがある		患者の表情や言動から看護師に対する患者の思いや関係性の変化を捉える
中来看護において大切に していることを実践できる能力		看護師の言動が患者との関係性にどのような影響を与えるか知っている
外来看護において大切に していることを実践でき る能力 患者を家族の気持ちを持って看護したい 患者や家族の気持ちを大切にするよう心がける 長い人生の一瞬の関わりであるが、どのように関わるかを大切にしたい 自分自身の看護を振り返り模索を続ける 自分自身の看護を振り返る 外来看護に限界やジレンマを感じる 自分自身の外来でのイメージがある		関心を持ち続け意識的にコミュニケーションをとる
していることを実践でき る能力  ・	していることを実践でき	患者が安心や安楽、安全を感じられるような対応を心がける
る能力       患者や家族の気持ちを大切にするよう心がける         長い人生の一瞬の関わりであるが、どのように関わるかを大切にしたい         自分自身の看護を振り返り模索を続ける         自分自身の看護を振り返る         外来看護に限界やジレンマを感じる         自分自身の外来でのイメージがある		患者個々に合った看護をしたい
長い人生の一瞬の関わりであるが、どのように関わるかを大切にしたい 自分自身の看護を振り返り模索を続ける 自分自身の看護を振り返る 外来看護に限界やジレンマを感じる 自分自身の外来でのイメージがある		余裕や穏やかな気持ちを持って看護したい
自分自身の看護を振り返り模索を続ける 自分自身の看護を振り返る 外来看護に限界やジレンマを感じる 自分自身の看護を振り返 り考える能力		患者や家族の気持ちを大切にするよう心がける
自分自身の看護を振り返る 外来看護に限界やジレンマを感じる 自分自身の外来でのイメージがある		長い人生の一瞬の関わりであるが、どのように関わるかを大切にしたい
自分自身の看護を振り返 り考える能力 外来看護に限界やジレンマを感じる 自分自身の外来でのイメージがある		自分自身の看護を振り返り模索を続ける
自分自身の看護を振り返 り考える能力 自分自身の外来でのイメージがある		自分自身の看護を振り返る
り考える能力	12 pt 12 pt	外来看護に限界やジレンマを感じる
		自分自身の外来でのイメージがある
	リちんの肥力	患者との関わりが自分によい影響を与えていると感じる
患者との関わりを語ることができる		患者との関わりを語ることができる
外来看護や診療科による特徴や難しさ、面白さを知っている		外来看護や診療科による特徴や難しさ、面白さを知っている

することや、障がいの程度から看護の必要性を判断 する》、《外来の患者全体に目を向ける》の7つの中 カテゴリーが抽出された。

例えば、「顔色とか動作とか・・・こう、じっと 座っている状態とか。(中略)訴えずにだまって座っ ている人で気分が悪そうにこう・・・で、見ますよ ね」(ケース E) のように、患者から訴えがなくて も《患者の姿勢や言動、表情から瞬時に重症度や緊 急度を捉える》ことをしていた。また、「外で横に なられている患者さんとか居られたら必ず声をかけ て・・・」(ケース J) や「声をかけてみる。とり あえずね。大丈夫ですか?って言ってみて、ああ、 いいですとか」(ケース A)のように、《患者をみ て気になったことを、患者自身に確認する》ことを 行っていた。また、「検体を運ぶたびに(待ってい る患者のことを)気にして」(ケース D)のように、 患者の姿勢や言動、表情から重症性や緊急性が低い と判断しても, 時間の経過によって状態が変化する 可能性を考え、診察の順番が来るまで気にかけ、《一 度待てると判断した患者も気にし続ける》ことをし ていた。さらに、「網膜色素変性症でだんだん視野 が欠けてきて、本当にこうやってこうやって(何か を)探している人とかは、必ず行って声をかける」 (ケース E) のように、《いつもの様子と比較するこ とや障がいの程度から看護の必要性を判断する》こ とをしていた。

#### 2) 関わる時間を捻出する能力

【関わる時間を捻出する能力】は、受診中の患者に関わるための時間を、やりくりや算段をしてつくりだすちからを意味する。これには、《気になる患者と関わる時間を作り出すために、患者の動きや周りの状況を見ながら、自分の業務の流れを調整する》、《患者の受診目的を把握したうえで、自分の時間が取れる時間帯に受診するよう計画的に調整する》、《忙しくても3~5分あれば話はできると思う》の3つの中カテゴリーが抽出された。

例えば、「中(診察室)に入られたらまた出て来られるチャンスがあるから。目だけは追ってる。採血しながらでもあっあそこに居られるとか」(ケース A)や、「点滴なんかでも、さっさとしてしまえばすぐに終わるんだけど、ゆっくりゆっくり準備したりしてね。そういう時にね、話をする」(ケース A)のように、《気になる患者と関わる時間を作り出すために、患者の動きや周りの状況を見ながら自分の業務を調整する》ことをしていた。また、「そういう人は眼底検査をするのはわかってるから、ちょっと遅めに来てくださいって来る時間を遅めに言って

あげて話をする」(ケースE)のように、《患者の受診目的を把握したうえで、自分の時間が取れる時間帯に受診するよう計画的に調整する》ことをしていた。さらに、「こっち(採血や注射)の忙しいところを済ませといて注射と注射の間の5分間でもあれば行く」(ケース A)や「3分もあれば大丈夫よって(自分を)納得させて」(ケース A)のように、《忙しくても $3\sim5$ 分あれば話はできると思う》と考えることができていた。

#### 3) 外来受診の間に看護を実践する能力

【外来受診の間に看護を実践する能力】は、患者 が外来を受診している限られた時間のなかで. 必要 な看護を判断して実践するちからを意味する。こ れには、《外来での様子から日常生活のことを考え る》、《点滴や処置のわずかな時間を利用して話をす る》、《できるだけ安楽にかつ効率的に順番を待てる よう配慮する》、《受診の目的が達成されるよう配慮 する》、《受診していることに気づけるようにアンテ ナを張り巡らす》、《絶対に関わりたい患者を決め、 受診中に関わることを諦めない》、《必要な情報を意 図的に集める》、《患者が帰宅するときのことや在宅 でのことを予測し関わる》、《患者の心理や反応、状 況から予測される苦痛や苦悩を考えて関わる》、《患 者や家族の対処を支援する》、《状況に応じて自分の 役割を考え行動する》の11の中カテゴリーが抽出さ れた。

例えば、「採血が終わっても自分ではもう押さえ られないからしばらく押さえてあげている時に話 を・・・」(ケース A) や、「点滴するところが少し 個室っぽいところじゃないですか。ふたりっきりに なるし、あの先生、点滴の前に必ずメイロン40(ml) を静注で入れる指示を出すんですよ。だから、メイ ロン40 (ml) を注射するときが (話す時) 」 (ケース J) のように、《点滴や処置のわずかな時間を利用して 話をする》ことをしていた。また、「なんとかさんっ て呼ばれたら、あっあの人だって思って。こう耳が ダンボになってね」(ケース A) や,「絶対この人 と話をしないといけないっていう人がいたら、診察 の人に頼んでおく。受付にも言っておく」(ケースA) のように、《受診していることに気づけるようにア ンテナを張り巡らす》ことをしていた。さらに、「誰 かが採血をしたりして終わって向こうへ出られたと きに追いかけて行く。話をしないといけないと思う ときは」(ケース A) や「点滴をする方にちょっと 待ってもらってでも、この方が優先とかね。あるよ ね。状況判断がいるよね。絶対っていうのはどうい う状況でも作ってるよね」(ケース A) のように、《絶

対に関わりたい患者を決め、受診中に関わることを 諦めない》でいた。入院の必要性があると思われる 終末期の患者が、帰宅することを希望している場合、 「帰るときに・・・もう来たときに車乗ってしんどかっ たのだから、帰ったらまたしんどくなるよって(中 略)でも点滴して楽になった?って聞いたら全然楽 になってないと・・・」(ケース C) のように、《患 者が帰宅するときのことや、在宅でのことを予測し 関わる》ことをしていた。また、「やっぱり入院さ れた方がいいし、絶対に早めに来られた方がいい。 もう放っておくのはよくないと (言った)」(ケース F) や 「その都度, なんか新しいことがあったらきっ ちり説明して、こうこうこうだからこうしないとい けないっていうのを・・・一回の説明ではなんかだ めなような」(ケース F) のように、《患者や家族の 対処を支援する》ことをしていた。さらに、「悪い ものじゃないかもしれないけど、一応、悪いものを 考えたときは一旦、ちゃんとした先生にかかった方 がいいっていうんで、○○先生の外来に来てくださ いって。その段階がやっぱりすごく辛いだろうなっ て」(ケース H) や「(終末期の患者が) このまま家 に帰っても大丈夫かなっていうのがあったからね | (ケース C) のように、《患者の心理や反応、状況か ら予測される苦痛や苦悩を考えて関わる》ことをし ていた。

#### 4) 関係性を築き継続していく能力

【関係性を築き継続していく能力】は、患者と看護師というつながりをつくり、さまざまな工夫や方法でつながりを良い状態で保っていくちからを意味する。これには、《前回の受診時に話したことや経過を意識的に話して、つながりを感じられるようにする》、《病気以外の話をすることも大切にする》、《看護師が患者のことをわかっていると視線やことばで伝える》、《患者個々に合った対応をしたり、患者の気持ちを察した対応をするよう心がけて、関係性を継続させる》、《患者の表情や言動から看護師に対する患者の思いや関係性の変化を捉える》、《看護師の言動が患者との関係性にどのような影響を与えるか知っている》、《関心を持ち続け意識的にコミュニケーションをとる》の7つの中カテゴリーが抽出された。

例えば、「その時(前回の受診時)に話したこととかっていうのは必ずその人に次の時に聞くんですよ。同じように。そしたら患者さんっていうのは自分のことを覚えてもらっている看護師さんってすごい感じがパッと変わって、そのときからまた話がずっと続いていくんですよ」(ケースB)のように、

《前回の受診時に話したことや経過を意識的に話して、つながりを感じられるようにする》ことをしていた。また、「採血(した後)座ったまま、病気に関係なく話していかれるじゃないですか。そういう人の話もそうですよねってとりあえずは何分かは話をきく。そしたら違うと思う」(ケース A)のように、《病気以外の話をすることも大切にする》ようにしていた。さらに、「忙しくて話せない状況のときは、わざと目があうようにして、来られているのはわかってますよ、任しておいてって(伝える)」(ケース C) のように、《看護師が患者のことをわかっていると視線やことばで伝える》ことをしていた。

#### 5) 外来看護において大切にしていることを実践で きる能力

【外来看護において大切にしていることを実践できる能力】は、外来で看護をしていくなかで、自分自身が大切に思い心がけていることや、どのような看護をしていきたいかという目指す看護を実際にしていくちからを意味する。これには、《患者が安心や安楽、安全を感じられるような対応を心がける》、《患者個々に合った看護をしたい》、《余裕や穏やかな気持ちを持って看護したい》、《患者や家族の気持ちを大切にするよう心がける》、《長い人生の一瞬の関わりであるが、どのように関わるかを大切にしたい》の5つの中カテゴリーが抽出された。

例えば、「安心して帰っていけるような外来ですよね。その中には事故がないとか薬が間違ってないとかいうのが全部含まれてますけどね。やっぱり嫌な思いをして帰らないっていうのが一番だと思います」(ケース I)のように、《患者が安心や安楽、安全を感じられるような対応を心がける》ことをしていた。また、「公平さですよね。(中略)言えない方も言えるような雰囲気を持ってみんなが公平に外来の患者さんは同じですよいう風な・・・(中略)話し方」(ケース I)や「もうターミナルだから、本人さんの考えが一番だろうし」(ケース C)のように、《患者や家族の気持ちを大切にするよう心がける》ことをしていた。

#### 6) 自分自身の看護を振り返り考える能力

【自分自身の看護を振り返り考える能力】は、自分が日々、どのように看護していたかをあれこれと思い返し、外来看護を捉えていくちからを意味する。これには、《自分自身の看護を振り返る》、《外来看護に限界やジレンマを感じる》、《自分自身の外来でのイメージがある》、《患者との関わりが自分によい影響を与えていると感じる》、《患者との関わりを語る

ことができる》、《外来看護や診療科による特徴や難 しさ、面白さを知っている》の7つの中カテゴリー が抽出された。

例えば、「(告知が)衝撃として患者さんに乗っかった時に自分がどういう風に動けるかなっていうのが・・・いつも感じるんですけどね」(ケース H)のように、《自分自身の看護を振り返り模索する》ことをしていた。また、「やっぱり時間がないっていうところが一番(厳しい)」(ケース G)や、「(外来看護は)一瞬だから面白いです」(ケース H)のように、《外来看護や診療科による特徴や難しさ、面白さを知っている》ことが語られていた。

#### 考 察

本研究の結果から、外来看護師は【外来受診中の今ここで看護を必要としている患者を見つけ出す能力】、【関わる時間を抽出する能力】、【外来受診の間に看護を実践する能力】、【関係性を築き継続していく能力】、【外来看護において大切にしていることを実践できる能力】、【自分自身の看護を振り返り考える能力】を活用して、役割を遂行していた。

これらのことから、外来看護師の役割とは、多数の患者のなかから、外来受診中に看護の必要性のある患者を見つけ出し看護の実践を通して関係性を継続すること、自らの看護実践を振り返り、外来看護において大切にしていることを実践することである。次に本研究の結果から外来看護師の役割を考察する。

1. 多数の患者のなかから外来受診中に看護の必要性のある患者を見つけ出し看護の実践を通して関係性を継続する

本研究において、外来看護師は【外来受診中の 今ここで看護を必要としている患者を見つけ出す 能力】、【関係性を築き継続していく能力】を活用 していた。外来看護師は、自らの視覚、聴覚を使 うのみでなく、その患者のいつもの様子や障がい の程度を結び付けて考えるなど、さまざまな方法 によって看護の必要性のある患者を見つけ出して いた。小林(1998)も、援助の必要性のある人を 見つけ出す、援助関係を作り継続する、という2 点が成功すれば外来看護は展開されていくと述べ ている。一見, セルフケアが可能に見える多くの 患者の中から、看護を必要とするわずかなサイン を捉えることは、外来看護の始まりであり外来看 護師の役割と考える。また、外来看護師の多くは 外来において、コミュニケーションが重要と考え ていた。患者と直接関わることができるのは受診 中の限られた時間であり、関係性は途切れがちに なる。そこで外来看護師は、前回の受診や看護師 との人間関係のつながりを患者が感じられるよう 話す内容を考えていた。話す内容としては、病気 に関する話に限らず、旅行や気候、おしゃれの話 などであった。終末期がん患者が外来受診をして, 看護師と生活の話や家族の話, いままでの人生に ついて話をすることは、患者と看護師という関係 に止まらず、生活しているひとりの人として向き 合うことになる(廣川, 2007)。本研究においても、 外来看護師は患者と話をすることそのものを大切 にしていた。受診の間隔があいていたとしても. 患者と看護師の関係性につながりを感じられるよ うコミュニケーションをとることは、外来看護師 の役割と考える。そして、外来看護師は関係性を 継続するために視線や介助といったことば以外の 方法を用いて自分自身の思いを伝えていた。さら に、よい関係性を継続させるために、患者の気持 ちを察した対応をしたり、患者の思いや関係性の 変化を捉えたりしていた。つまり、外来看護師は 関係性を築くだけでなく、よりよい関係性を継続 させるための工夫をしたり、患者の反応を捉えた りする必要がある。

多数の患者のなかから外来受診中に看護の必要性のある患者を見つけ出し、関係性を継続させることに加え、【関わる時間を抽出する能力】や【外来受診の間に看護を実践する能力】を活用していることが明らかになった。

外来では、多くの患者の中から看護の必要性が ある患者を見つけ出し, 同時に関わる時間を捻出 することにより看護を実践することができる。畠 中(2000) も、多くの患者の中から看護を必要と している患者を把握し関わっていく時間を捻出す るには、それ相応の看護の力を必要とすると述べ ている。本研究において、外来看護師はさまざま な場面で、3~5分あれば患者に関わることがで きるという時間の捉え方をし、わずかな時間を作 り出すために調整をしていた。このように、3~ 5分あれば患者に関わることができるという考え 方は、時間を捻出する能力が必要とされる外来に おいて、看護実践の原動力になる。看護実践とし ては, 外来受診中にある処置や検査, 起こってい る症状に対する看護だけにとどまらず、患者の日 常生活, 帰宅するときのこと, 在宅でのこと, 心 理や予測される苦痛や苦悩に対する看護, 対処の 支援を行っていた。

2. 自らの看護実践を振り返り、外来看護において

大切にしていることを実践する

本研究から、外来看護師は【自分自身の看護を 振り返り考える能力】を持っていた。そして、外 来看護の現状、特徴、難しさ、面白さを知ったう えで、限界やジレンマを感じながらも、どのよう に看護するかを考え続けていた。また、外来看護 師は【外来看護において大切にしていることを実 践できる能力】を持ち、外来受診している患者や 家族がどのような気持ちでいるのか、 どのような ことを求めているかといった視点を持って、患者 や家族が安心、安楽、安全を感じられるような対 応を心がけていた。稲岡(1997)は、看護の対象 者に寄り添い日常生活を助け、人間の深い内的世 界を洞察し、不安や恐怖、苦痛や苦悩を共有し、 少しでも安らかに過ごすことができるようにする ことは看護の心であると述べている。外来看護師 が、病いと共に日常生活を生きている患者と家族 の気持ちに思いを寄せ、外来という場で関わり、 少しでも安らぎのある日常生活を送れるよう支え ることは、外来看護師の役割と考える。

井上(2002)は、看護は何を目指すのかという看護の理念を持って、対象特性はどのような人々であるかに加え、ケアが提供される場の状況、その領域に特徴的なケアの追求が必要だと述べている。外来看護師が、外来看護を実践していくときに大切にしていることを明確に持って、外来受診する患者や家族の状況において外来看護にどのような問題、困難、魅力、可能性があるかを捉え、目指す看護を模索することは、外来看護師の役割であり外来看護の専門性の構築につながると考える。

#### 結 論

外来看護師の役割は、病いと共に生きている患者 と家族の気持ちに思いを寄せ、安らぎのある日常生 活を送れるよう支えることであった。

外来看護師は、役割を遂行するために【外来受診中の今ここで看護を必要としている患者を見つけ出す能力】、【関わる時間を抽出する能力】、【外来受診の間に看護を実践する能力】、【関係性を築き継続していく能力】、【外来看護において大切にしていることを実践できる能力】、【自分自身の看護を振り返り考える能力】を活用していた。

#### 本研究の限界と今後の課題

本研究の対象者が所属する診療科や外来看護経験 年数は多様である。今後は、対象者の所属する診療 科や外来看護経験年数などを考慮して、外来看護師 の役割を明らかにすることが課題である。また、療養の場が多岐にわたっていることから、患者が療養の場を選択していくことを支援する外来看護師の能力や役割を明らかにすることが必要である。

#### 謝 辞

本研究を行うにあたり、ご協力くださいました看護部長をはじめ、インタビューに快く応じてくださいました看護師の方々に心より厚く御礼申し上げます。

なお,本研究は日本赤十字広島看護大学平成18年 度共同研究費の助成を受けて行った。

#### 文 献

グレッグ美鈴,池邉敏子,池西悦子,林由美子,平山朝子(2003). 臨床看護師のキャリア発達の構造. 岐阜県立看護大学紀要,3(1),1-8.

グレッグ美鈴, 林由美子, 池西悦子, 両羽美穂子, 奥井幸子, 上野美智子, 栗田孝子, 宮本千津子, 鎌田亜由美 (2005). 看護職者のキャリアマネジ メントのあり方. 岐阜県立看護大学紀要, 5(1), 3-9.

畠中智代 (2000). 変わり続ける外来と当院の試み. 看護管理, 10(9), 696-700.

林啓子 (1990). 患者のニーズに応える外来看護 患者ニーズの調査から. *看護展望, 15(1),* 58-62.

林啓子 (2001). 外来看護の役割と課題;外来看護 が変われば医療全体が変わる. *看護技術*, 47 (7), 17-21.

廣川恵子(2007)終末期がん患者や家族にとっての 外来通院の意味と外来看護師の役割. *日本赤十字* 広島看護大学紀要. 7, 27-34.

Holloway, I. & Wheeler, S. (1996) /野口美和子(2000). ナースのための質的研究入門(第1版). 171-179. 東京, 医学書院.

保健医療六法 平成14年版. 中央法規出版株式会社. 市橋麻由美 (2001). 訪問看護を受けているがん患 者に対する外来看護婦の役割. 神奈川県立看護教 育大学校看護教育研究集録, 26, 395-402.

稲岡文昭 (1997). 看護の叡智 ヒューマン・ケア リングの実践に向けて. *日本看護科学会誌, 17(2)*, 1-10.

井上智子 (2002). 急性期看護の専門性と能力開発. *看護*, 54(4), 83-92.

数間恵子, 小林康司 (2005). 在院日数短縮化によるケア必要量の増加とニーズの多様化. インターナショナルナーシングレビュー, 28(1), 32-36.

小林美奈子 (1998). 看護のかかわりが必要な患者をどうみつけるか. *看護技術, 44(13)*, 20-26. 小薬祐子 (2005). いま外来看護に求められているもの. クリニカルスタディ, 26(10), 14-19. 野中みぎわ (2006). 外来看護師に求められる能力と専門性の育成. *看護展望, 31(12)*, 37-45.

吉田澄恵, 佐々木由美子, 久保田聡美 (2007). 外 来看護をめぐる課題と今後の可能性. *看護管理*, 17(8), 642-649.

由井志穂 (2006). がん専門病院における手術看護 の専門性. 神奈川県立保健福祉大学実践教育セン ター 看護教育研究集録, 31, 235-242.

## **Outpatient Nurses Ability Found in Their Practices**

#### Keiko HIROKAWA\*1, Yaeko OKUBO\*2, Kikuko UEDA\*1

#### **Abstract:**

Background: Clarifying the roles of outpatient nurses is important to the career development process.

*Purpose*: The purpose of this study was to explore the abilities outpatient nurses employ in their practices and to clarify the roles of outpatient nurses.

*Method*: A semi-structured interview was used on 10 outpatient nurses and qualitative-inductive analysis was employed.

Findings: As a result, the outpatient nurses' abilities which have been exercised to complete their roles were extracted: [the ability to identify the patients who require prompt nursing attention during their outpatient visit], [the ability to manage the time to work with patients], [the ability to perform nursing practice during patients' outpatient visit], [the ability to build and maintain the relationship with patients], [the ability to practice nursing care possessing their own value in outpatient nursing], and [the ability to review and examine the results of the nursing care they have performed].

Conclusions: Nursing roles in outpatient settings refers to identifying the patients who need immediate nursing attention during their outpatient visit and maintaining the relationship with them through the nursing practice, possessing a goal for the nurses' own value in their nursing practice, and caring for the patients and families who live with illness as well as supporting them to live everyday life with comfort.

#### **Keywords:**

outpatient nurse, ability, nursing practice